科目名	履修学年	単位数	教科書	副教材等
文学国語	2	2	文学国語（数研出版）	文学国語 準拠ワーク（数研出版） プレミアムカラー 国語便覧（数研出版）

評価の観点	到達目標および評価の内容
a 知識・技能	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
b 思考・判断・表現	・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
c 主体的に学習に取り組む態度	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価の方法	
各定期考査、単元テスト、課題等の提出状況、学習活動への取組などの総合評価となります。	

年間指導計画											
前期					後期						
月	予定 時数	学習内容	評価の観点			月	予定 時数	学習内容	評価の観点		
			a	b	c				a	b	c
4	10	「羅生門」芥川龍之介		○	○	10	5	「ブックトーク」		○	○
5	4	平成の小説 「無用の人」原田マハ		○	○	11	5	詩歌 「永訣の朝」宮澤賢治		○	○
	1	定期考査	○	○		1	1	定期考査	○	○	
6	4	昭和後期の小説 「ナイン」井上ひさし		○	○	12	4	文学的文章の創作 「物語のおわり」湊かなえ		○	○
7	6	昭和初期の小説 「山椒魚」井伏鱒二		○	○	1	4	古典と現代語訳 「源氏物語」	○	○	
8	10	文学の扉 「山月記」中島敦		○	○	2	4	文学評論 「文学のふるさと」坂口安吾		○	○
9	1	定期考査	○	○		10	10	大正の小説 「ころ」夏目漱石		○	○
						3	1	定期考査	○	○	
計 70											

※原則として一つの単元ですべての観点について評価するが、特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

履修上および学習上の留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指示に応じて教材、タブレット等を忘れずに持ってくること。 ・国語はあらゆる学習の基礎となることに十分留意し、日々の授業に集中して取り組むこと。 ・生涯にわたって使う国語の運用能力の向上を目指すこと。 ・授業に際しては予習・復習を常とし、けっして受動的な態度で臨まないこと。 ・授業をきっかけに自己の読書活動を広げ、習慣化していくこと。